令和5年度 No.6

駒岡小学校だより

１０月号

体験的行事で育つ

校長　岸田 薫

9月の最終週は、秋とは思えないような暑い日が続きましたが、10月は、ようやく秋らしい気温になりそうです。「秋」と言われて連想するものの一つに「お月見」があります。9月のお月見は十五夜ですが、10月のお月見は十三夜と言います。十五夜のほうは、わらべうた「うさぎ」の中で「♪十五夜 お月様 見て はねる」と歌われるくらい有名ですが、十三夜は、意外と知られていないかもしれません。

さて、今年も、4年生以上の宿泊を伴う行事が全て終わりました。4年生の野島体験学習、5年生の三浦体験学習、6年生の箱根修学旅行、いずれもお天気に恵まれ、充実した活動になりました。学校行事は、みんなで協力してよりよい学校生活を作っていこうという態度を育てることを目指しています。様々な行事を通して、望ましい人間関係や集団としての連帯感、公共の精神などを育んでいきます。

4年生は、社会科見学の要素を含みながらも、いつもとは違った生活環境の中で、どう行動したらよいかを自分で考えながら学びます。家庭では当たり前だと思っていたことがそうではなかったり、一人のちょっとした行動が集団の中では大きな影響を与えることになってしまったり、といったことに気づいていく姿が見られました。

5年生は、三浦の自然に大いに親しみ、充実した体験活動を通して、集団としてのレベルアップを目指します。普段はできないいかだ体験や野外炊事に取り組む中で、心を一つにすることや自分の責任を果たすことを学んでいました。盛り上がるときは大いに盛り上がり、静かにするときはすっと心を整える、そんな姿に高学年としての育ちを感じました。

6年生は、いわゆる観光地を訪れることで、歴史や文化などに親しむとともに、公衆道徳についても学んでいきます。学校の中は「自分たちの世界」ですが、一歩社会に出ればそうではありません。そうした中でどうあるべきか、自分を見つめ直す機会になりました。箱根周辺は、小田原城や芦ノ湖、箱根関所跡、大涌谷と、名所が多く、実に魅力的な地です。実際に見聞きすることで漏れる「うわぁ…。」という声。心が動くってこういう瞬間なのだな、と改めて感じました。

たった二日間ですが、体験学習は子どもたちを大きく成長させます。でも、子どもたちは、そんな自分たちの姿を「100%」とは捉えず、もっとこうすればよかった、ここが課題だった、と言います。もっと満足してもいいのにな、と感じることもありますが、どこまでも伸びしろを求めるのは、子どものもつ「育ちたい」というエネルギーなのだと思います。

今年の十三夜は、10月27日ですが、実はこの十三夜は、満月ではありません。ほんの少し欠けた月なのです。欠けているからこその味わいがあり、欠けていることもまた趣なのでしょう。完全であることだけがよいわけではないのかもしれません。欠けた月を愛でる気持ち、大切にしたいです。